

令和4年7月15日

平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展
「大地鳴動 -大地の知らせる危機と私たちの生活-」

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所

【開催趣旨】

2022年、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）から27年目、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）から11年目を迎えました。大きな痛手の癒えぬまま、しかし将来に向かって歩みださねばならない私たちは、多くの犠牲の中に何を学び、活かしていこうとしているのでしょうか。

奈良文化財研究所は、文部科学省科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画について（2013年11月）」により制定された5か年計画「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」（測地分科会・地震火山部会次期計画検討委員会、2014年）に従い、地震火山噴火予知研究協議会の一員として、2014年より「考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開」事業を進めてきました。平成31年1月には、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）の推進について」が建言され、当研究所も「考古・文献資料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析」事業を新たな5か年計画として展開しています。また、2020年10月には「文化財防災センター」が独立行政法人国立文化財機構に新たに創設され、「文化財を災害からまもる」ことで地域の社会財産と文化への防災・減災に取り組んでいます。

本展では、この2つの事業を進める中で発掘調査によって発見された地震痕跡について、地層（土層）転写法によって保存した貴重な剥ぎ取り資料を展示します。改めて私たちの足元で起きている地震災害を考える一助となればと考えております。

自然を掌握し、災害を完全に抑止することは現在の我々には叶いません。しかし災害の発生や被災のメカニズムを解明することで、「相手を識って、自分を理解」し、「事前の備え」を怠らないことで、被災を最小限にとどめることはできるでしょう。今回の企画を通し、人の知識と知恵の宝庫である「歴史」を紐解く、すなわち「温故知新」によって私たちの将来を考えるきっかけとしていただければ幸いです。

【会期】

令和4年7月16日（土）～8月28日（日）
月曜休館（祝日の場合は翌平日休館）、入館料無料

【場所】

平城宮跡資料館 企画展示室

【主催】

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

【共催】

独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター
地震・火山噴火予知研究協議会

【出品】

- ① 平城第 530 次調査出土地震痕跡
- ② 木津川河床底遺跡剥ぎ取り
- ③ 門田遺跡剥ぎ取り ほか

【連絡先】

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1
TEL : 0742-30-6755 FAX : 0742-30-6750
担当 : 企画調整部 展示企画室 下山 千尋